

淡水魚保護増殖試験 溪流魚希少魚（ゴギ）

山根恭道・中村幹雄・向井哲也・清川智之・内田 浩

1. 目的

ゴギは中国地方の一部だけに生息し、瀬戸内海側では岡山県の吉井川から山口県の錦川までが、日本海側では島根県だけで斐伊川から高津川までが自然分布の範囲として知られている。形態的な特徴は頭頂部に白点もしくは虫食い模様をもつことで在来のイワナ属と区別される。

「緊急に保護を要する動植物の種の選定調査」が昭和61年から4カ年にわたって環境庁において実施された。その調査結果として、ゴギは危急種として掲載されている。危急種とはその原因を放置しておけば絶滅危惧（種絶滅の危機に瀕している種または亜種。）に移行することが確実な種をいう。

この希少種であるゴギの繁殖保護を図るため、出雲部では頓原川支流の位出谷川・内谷川・宇山川および長谷川の4河川を島根県内水面漁場管理委員会委員会指示によって下記に示すとおり禁漁区に設定している。

その生態と資源の実態を把握するため調査した。

2. 委員会指示による禁漁河川と期間

頓原川支流

位出谷川 昭和60年1月11日～63年1月10日

位出谷川・宇山川 昭和63年4月1日～平成3年3月31日

位出谷川・宇山川 平成3年4月1日～6年3月31日

位出谷川・宇山川・内谷川 平成6年3月1日～9年2月28日

久野川水系

長谷川 平成6年3月1日～9年2月28日

3. 調査方法

釣りによりゴギを採捕し全長を測定し再放流した。併せて目視による観察をおこなった。また、産卵場とか水辺に繁茂する木々や川床の岩による隠れ場所を調査し繁殖適地であるか調査した。

頓原川支流域では位出谷川・内谷川及び宇山川のほか宇山川の代替え河川として、地元関係者から委員会指示の要望のある牛谷川も調査を実施した。

久野川支流域では長谷川の調査を実施した。

4. 調査場所及び調査河川

平成8年10月28日（別添図参照）頓原川支流 牛谷川 宇山川

平成8年10月29日（別添図参照）頓原川支流 位出谷川 内谷川

久野川支流 長谷川

5. 河川別調査結果

(1). 位出谷川（頓原川支流）

①. 調査区域及び調査時間

調査区域： 図参照。約1.5km

調査時間： 9：30～11：30

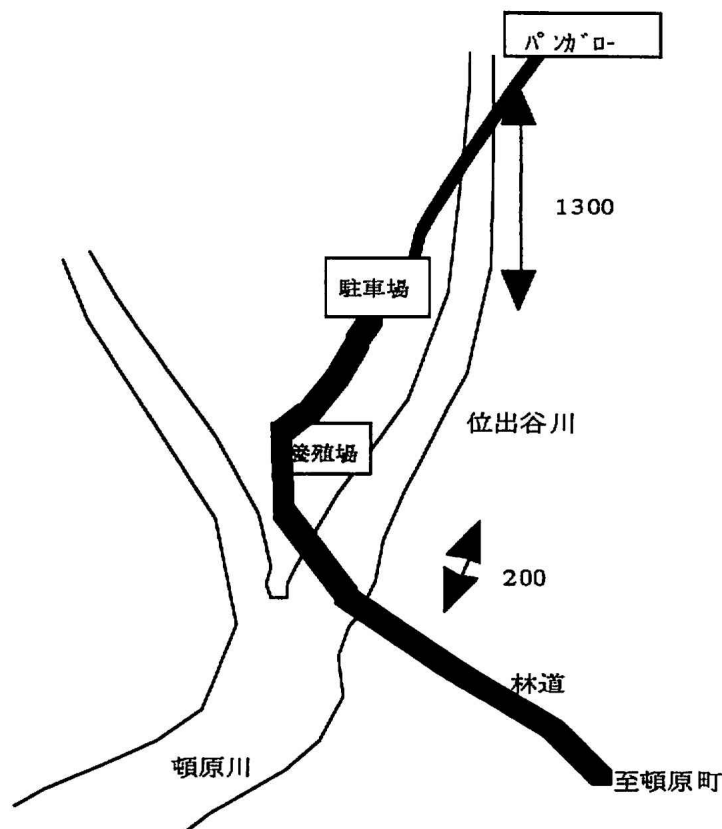
②. 結果

この河川は禁漁指定地点から大きな淵が連なり、植生にも優れゴギの生息にこれ以上に無い河川と言える。

産卵場の数は非常に多く、淵のほとんどが産卵場となっていた。今回すでに産卵が始まっていたためペアリングしているもの、産卵が終わって産卵場の上でじっと動かず卵を守っているものが見られた。

産卵を始めると餌を食べないため採捕尾数は少ないが、ゴギの生息量は非常に多い事が確認された。

採捕個体数	ゴギ	14.0～24.0cm	9尾
	タカハヤ	12cm	3尾
目視	ゴギ	15～25cm	11尾
	タカハヤ	12cm	2尾



(2). 内谷川（頓原川支流）

①. 調査区域及び調査時間

調査区域：図参照。約1.5km

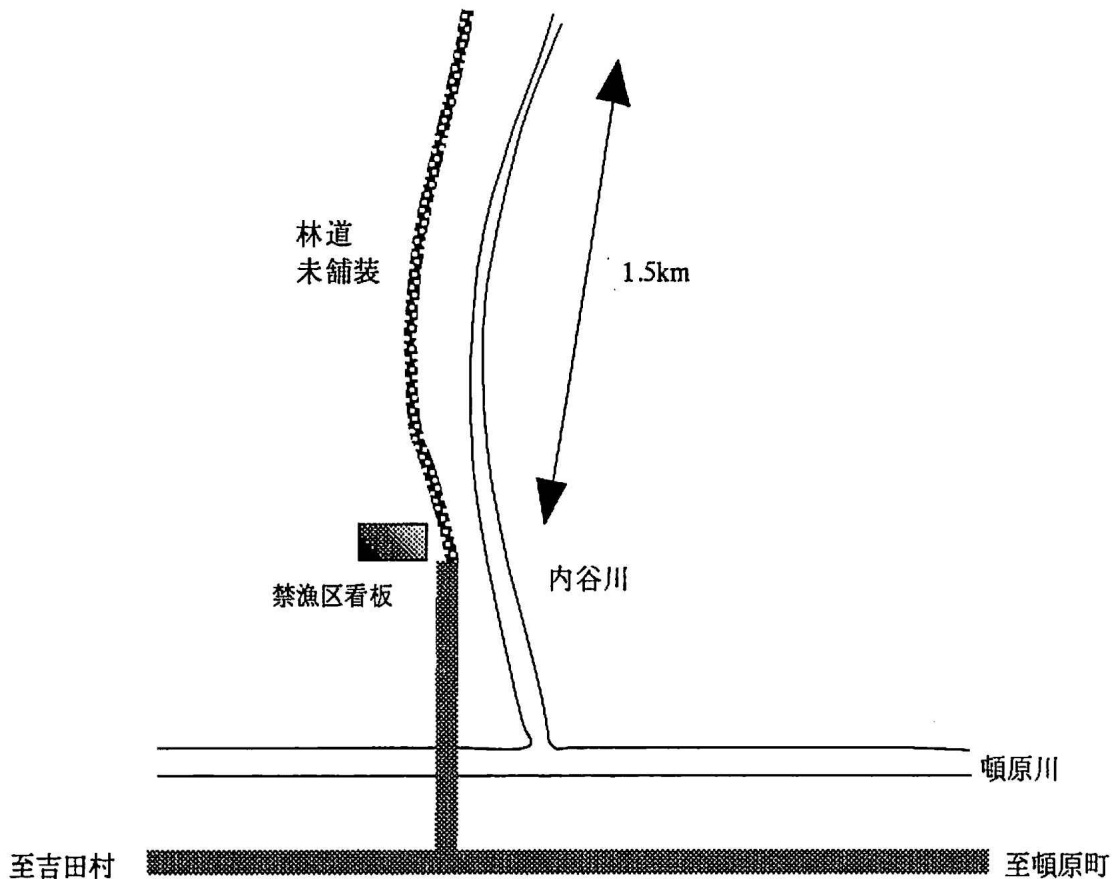
調査時間：9：30～11：30

②. 結果

他の河川の様子に15cm以下の小型個体は見られなかったが、植生や河川形態はゴギの生息に適し、たくさんのゴギが確認できた。

産卵場は調査区間に8地点見られ、その数は上流部になるほど多く確認された。ペアリングしているものは確認されなかった。

採捕個体数	ゴギ	16.0～23.0cm	10尾
	ヤマメ	12.0cm	1尾
目視	ゴギ	15～16cm	4尾
	ヤマメ	20cm	2尾



(3). 宇山川（頓原川支流）

①. 調査区域及び調査時間

調査区域：図参照。約1.5km

調査時間：9：30～11：30

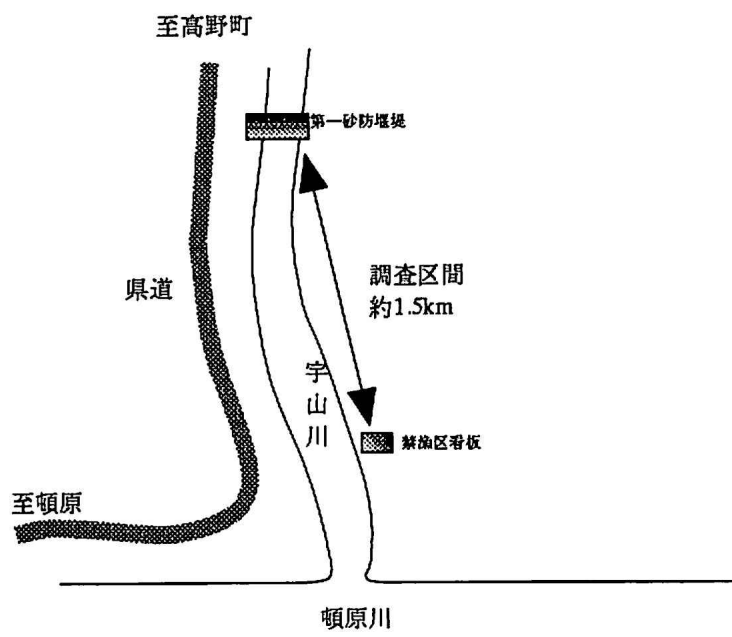
②. 結果

保護区指定地点から第一砂防堰堤までの区間を調査しゴギ2尾を採捕した。また、目視により12～20cmのゴギを確認した。

調査開始地点から広域農道の交差点まで約1kmは、川辺に木々が無く護岸の整備された個所が点在してゴギ生息場所としては良くない状態にあった。

産卵場については調査区間では上流部にわずかある程度で、あまり見られなかった。

採捕個体数	ゴギ	13.0cm、17.5cm	2尾
	ヤマメ	12.0～29.0cm	4尾
	タカハヤ	10.0cm	1尾
目視	ゴギ	12～20cm	4尾
	ヤマメ	20～25cm	2尾



(4). 牛谷川（頓原川支流）

①. 調査区域及び調査時間

調査区域：図参照。約1.5km

調査時間：13：00～15：00

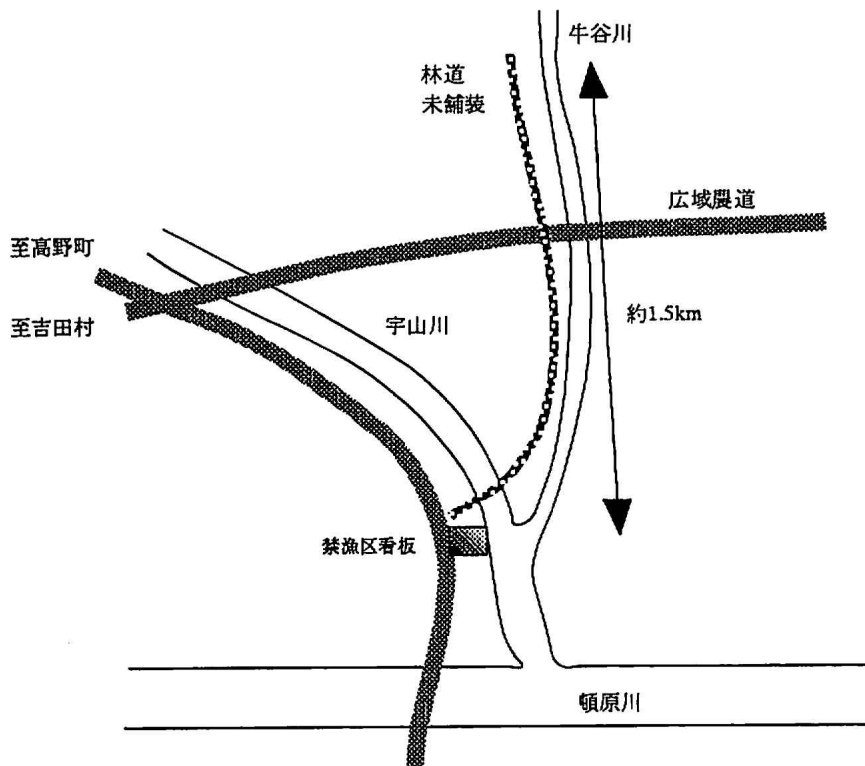
②. 結果

調査区間の上流部で20.0cm以上の大型魚が4尾下流部で1尾漁獲された。20cm以下の個体は9尾漁獲され、目視でも9尾が確認された。

産卵場は下流部から上流部まで多数存在し、宇山川の第一砂防堰堤から下流部に産卵場があまり無い事から、この周辺水域のゴギ資源供給の源となっている可能性がある。

この河川は牛谷川の代替え河川に予定され、禁漁区では無いがたくさんのゴギの生息が確認され生息適地であることが実証された。

採捕個体数	ゴギ	14.0～26.0cm	14尾
	ヤマメ	19.0cm	1尾
	タカハヤ	10.0cm	1尾
目視	ゴギ	12～20cm	12尾



(5). 長谷川 (久野川支流)

①. 調査区域及び調査時間

調査区域： 図参照。約1.5km

調査時間： 14:30~16:30

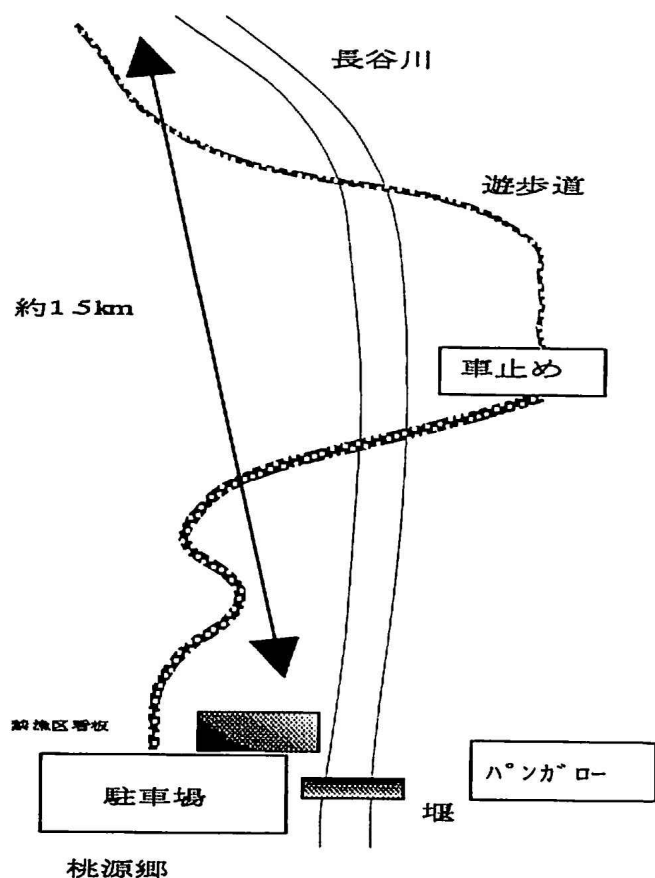
②. 結果

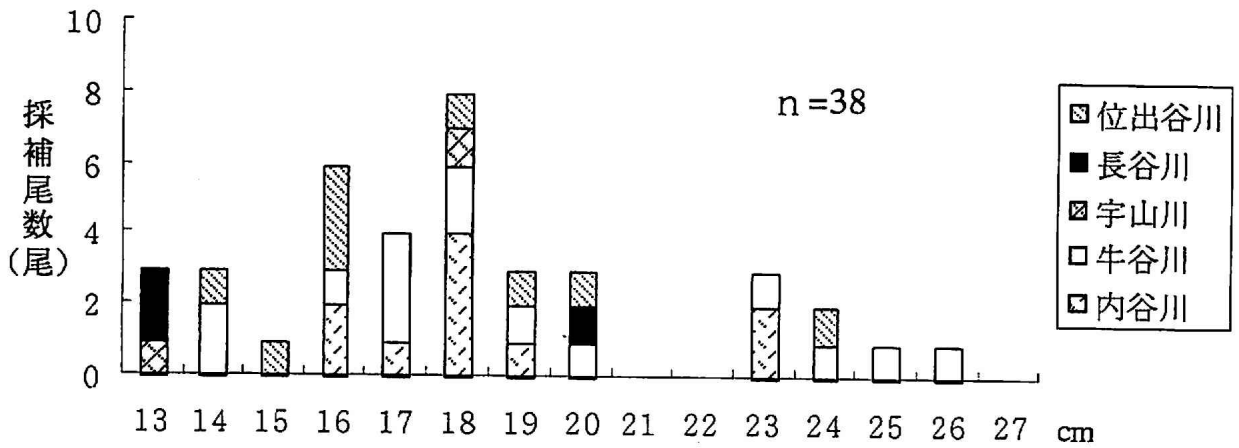
下流部は大きな淵が連なり植生にも優れているが、ヤマメとタカハヤの確認しかできなかった。

ゴギの生息域は林道を約1km登った車止めから上流で、多く確認された。

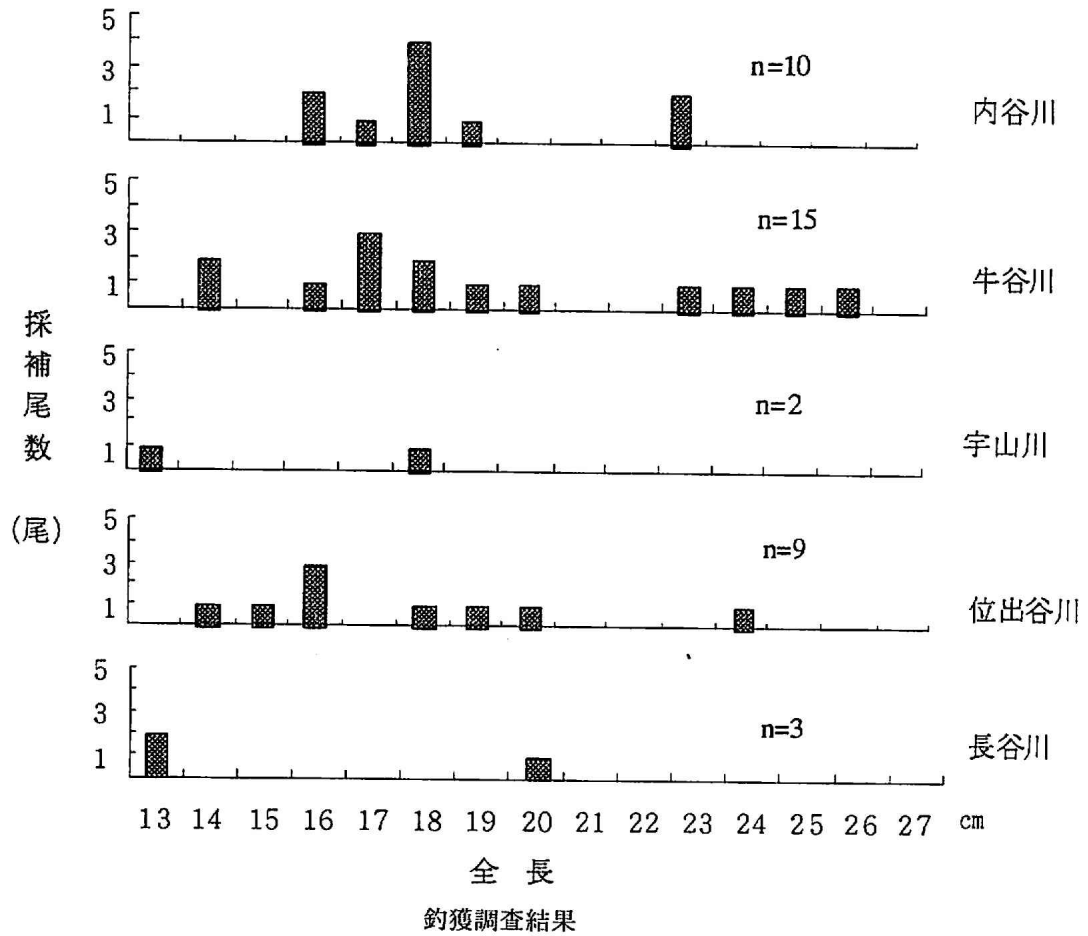
調査区間には頓原の様な産卵場は確認されなかったが、粒径の小さいきれいな細砂が川床に堆積し、ゴギの産卵場には適さないが、水交換の良い場所を選んで産卵場に行っている可能性がある。

採捕個体数	ゴギ	13.0cm、13.0cm、20.0cm	3尾
	ヤマメ	19cm	1尾
	タカハヤ	10cm	1尾
目視	ゴギ	12~20cm	11尾
	ヤマメ	15cm	2尾





全長
釣獲調査結果



7. まとめ

(1). 神戸川

今回調査を実施した頓原川支流の位出谷川・内谷川・牛谷川および宇山川は河川環境も優れており、周辺の植生に優れ広葉樹の自然林が非常に多く残っており、ゴギの良好な生息環境が維持できている。

位出谷川は昭和60年1月から委員会指示による禁漁区を設定している。宇山川は位出谷川が禁漁になり遊漁者が増加したことから、昭和63年4月から禁漁区を設定している。内谷川は溪流魚の解禁日が3月に変更になった平成3年3月から禁漁区に設定している。牛谷川は宇山川の下流部に合流する河川で、禁漁区の設定はされていない。

今回の調査では各2時間の釣獲調査を実施したが、禁漁区設定河川および禁漁区に設定されていない河川共に、大型のゴギを含め多数のゴギが生息していることが解り、産卵場についてもたくさん存在し産卵行動も確認されたことから、繁殖適地であると共に他の河川への資源供給の源となっていると考えられる点からも、禁漁区の設定によりゴギの保護が図られている事がわかる。

(2). 斐伊川

今回調査した長谷川は三郡山（806m）を水源とする斐伊川水系久野川の支流であり、大東町が桃源郷と命名し県民が自然に触れるための施設がされている。この河川はその名の通り周辺の環境もナラ・ケヤキなど広葉樹の自然林が多く残っており、優れた環境条件に恵まれている。

しかし、この地は古くタタラの採掘を行っていた関係で、現在でも河川へ砂の流出が続いているため、川床に砂がたくさん堆積している。

長谷川は内谷川と同様、溪流魚の解禁日が3月に変更になった平成3年3月から禁漁区に設定していて、斐伊川水系唯一のゴギ禁漁区である。

今回の調査では2時間の釣獲調査を実施した。調査した区間では3尾しか採捕できなかったが、目視では12~20cmのゴギが11尾とかなり確認されたことや地元の聞き取りの結果では、調査区間よりさらに上流域で大型の個体が多いとのことであった。ゴギの生息域は調査区間よりさらに1km程度上流まででありかなりの生息があるものと推測される。

今回の調査では禁漁区の効果は十分に把握できなかったが、目視の結果や地元の聞き取りにより大型のゴギを含め、多数のゴギの生息が確認と考えられ、禁漁区の設定によりゴギの保護が図られていると推測される。

8. 参考文献

木本秀明：1991. 島根県紙祖川に生息するゴギの資源状態. 日本水産学会誌, 58 (9) 1585-1593
(1992)

田中幾太郎：1991. 匹見自然林（安蔵寺山加令谷）学術調査報告書. 島根県.

環境庁自然保護局野生生物課：1991. 日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータブック）.
脊椎動物編